授業科目	社会福祉【視能】	担当教員	吉田　竜平		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	社会福祉全般の基礎的知識を習得するとともに、社会情勢の変化に伴って進められてきた福祉改革の内容など、社会福祉をめぐる近年の動向や課題について学ぶ。				
到達目標	①児童・高齢者・障害者の福祉制度や福祉サービス②医療保険・年金保険・雇用保険等の社会保障制度の意義・概要・課題等③人々の生活を支えるさまざまな職種について理解し、求められる連携について。　以上を説明できるレベル。				
テキスト・参考図書等	テキスト指定はせず、毎回、レジュメを配付する				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①修了試験 70% ②リアクションペーパー30%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の留意事項	各授業回でリアクションペーパーの記載を求める。記載されている質問など、全体で共有することが好ましいものは、次回以降の授業時に取り上げる。 他学生の迷惑になる為、私語は慎むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	社会福祉の基礎概念	人権や権利、援助の対象と援助における価値等、社会福祉の基本的な考え方を理解する。
	2	子ども家庭福祉	子どもの権利、子ども家庭福祉に関連する法律と制度、ひとり親家庭、女性への福祉的支援について学ぶ。
	3	障害者福祉	障害者福祉の基本理念、障害者福祉に関連する法律と制度、権利擁護とアドボカシー（代弁機能）について学ぶ。
	4	高齢者福祉	高齢者福祉の基本理念、高齢者福祉に関連する法律と制度、介護保険制度、地域包括ケアについて学ぶ。
	5	公的扶助	ナショナル・ミニマムの概念、生存権、生活保護制度について学ぶ。
	6	医療保険制度と労働保険制度	わが国の医療保険制度と雇用保険、労働者災害補償保険の概要について学ぶ。
	7	年金制度	わが国の年金制度の概要について学ぶ。
	8	まとめ	授業内試験実施

授業科目	社会福祉【視能】	担当教員 実務経験	吉田竜平 有：■　　無：□	社会福祉士として福祉相談業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視能矯正学Ⅱ【視能】	担当教員	佐藤　幸恵		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	斜視・弱視に関する基本的知識の習得				
到達目標	斜視・弱視の基本的知識を身につけ、診断・治療について理解する				
テキスト・参考図書等	視能学エキスパート視能訓練学 第 2 版（医学書院)、視能学 第 3 版（文光堂）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	講義内で単元ごとの復習小テストを行うので、集中して受講すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	斜視の基本的知識 1 (佐藤)	斜視総論　斜視の定義と病因論
	2	斜視の基本的知識 2 (佐藤)	斜視の分類①　内斜視
	3	斜視の基本的知識 3 (佐藤)	斜視の分類②　外斜視
	4	斜視の基本的知識 4 (佐藤)	斜視の分類③　上下斜視
	5	斜視の基本的知識 5 (佐藤)	斜視の分類④　麻痺性斜視 1
	6	斜視の基本的知識 6 (佐藤)	斜視の分類⑤　麻痺性斜視 2
	7	斜視の基本的知識 7 (佐藤)	斜視の分類⑥　特殊型斜視 1
	8	斜視の基本的知識 8 (佐藤)	斜視の分類⑦　特殊型斜視 2
	9	斜視の基本的知識 9 (佐藤)	斜視　まとめ
	10	弱視の基本的知識 1 (佐久間)	弱視総論　小児の視力発達と特性
	11	弱視の基本的知識 2 (佐久間)	弱視の分類①
	12	弱視の基本的知識 3 (佐久間)	弱視の分類②
	13	弱視の基本的知識 4 (佐久間)	弱視の評価
	14	弱視の基本的知識 5 (佐久間)	弱視の治療　弱視と鑑別すべき疾患
	15	まとめ（佐久間・佐藤）	斜視弱視まとめ

授業科目	視能矯正学Ⅱ【視能】	担当教員 実務経験	佐久間　愛 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務・視能矯正に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心理学【視能】	担当教員	高橋　陸斗		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	専門課程につながるベーシックな心理学を幅広く学ぶ。心理学を学ぶことで視能訓練士としての資質の向上を図る。特に、心理的配慮が求められる事例の学習によって、より高度なコミュニケーションスキルや知識を身につける。				
到達目標	心理学的な知識の習得、そして視能訓練士として関わる現場でそれらを具体的に活用できる。				
テキスト・参考図書等	心理学第 5 版 （東京大学出版会)、心理学（有斐閣)、他				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	①定期試験 90% ②提出物 10%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	①板書、質疑応答、ディスカッション。②心理実験・検査を活用した体験学習。 心理学は人の心を対象にした学問である。心は具体的な形を持たないからこそ理解することが難しい一方で、人間にとって身近で親しみやすいものでもある。その心について様々な角度から見ていくことで、今までとは違った視点で自分自身や周りの人、社会全体が捉えられるようになる。心理学的な知識やスキルは、将来医療の現場で患者さんと関わっていく皆さんにとって様々な形で役立つと思われる。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	・講義全体の流れ　・自己紹介 ・心理学とは－心理学の歴史、意外と身近にある心理学
	2	学習	学習の理論、環境に合わせて変化する行動
	3	学習/記憶	・技術を習得するプロセス　・記憶の種類
	4	記憶	忘れてしまう要因、どうしたら記憶力が良くなるのか
	5	性格と個人差の心理学 1	・性格とは何か　・性格はどのように作られるか　・性格のアセスメント
	6	性格と個人差の心理学 2	YG 性格検査 内田クレペリン精神検査 1
	7	性格と個人差の心理学 3	YG 性格検査 内田クレペリン精神検査 2
	8	発達心理学 1	・言語・認知の発達 ・乳児期・幼児期の発達
	9	発達心理学 2	・幼児期の発達　心の理論－他者の考えを理解する能力 ・児童期以降の発達
	10	社会心理学 1	人から受ける影響、どんな人に魅力を感じるか
	11	社会心理学 2	・集団の中にいることで受ける影響 ・文化や環境からの影響
	12	事例・実践を通して見る臨床的心理学 1	発達障害について考える－ 障害をどのように捉えるか
	13	事例・実践を通して見る臨床的心理学 2	当事者の困りや悩みをどう理解するか
	14	事例・実践を通して見る臨床的心理学 3	心理的な問題にどのように介入するか(臨床心理学)
	15	まとめとして－医療と心理学	現場で活かす心理学

授業科目	心理学【視能】	担当教員 実務経験	高橋陸斗 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	国語表現法【視能】	担当教員	横山　昌明		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	学生・社会人として必要な「国語力」 を身に付け、適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝える力を高めるとともに、思考力や判断力、想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につける。				
到達目標	①国語表現の学習を始めるにあたり、表現能力の自己診断を行い、学習の意義や方法を確認する。 ②漢字や語彙の学習を通し、これらを習得していく習慣を形成するとともに、日本語の特徴に関心を持ち、解釈や表現に生かす意識を持つ。 ③要約の方法を理解し、それを応用しながら、レポートや小論文の実践的な書き方を身につける。 ④レポートや小論文作成の手順と方法を学ぶ。				
テキスト・参考図書等	キャリアアップ国語表現法　24 訂版（嵯峨野書院）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①定期試験 50% ②レポート・論文 30% ③提出物(レポート・論文以外)10% ④その他(取組姿勢など)10%
	レポート	30	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	10	

履修上の留意事項	①授業は、講義を中心に演習・ペアワーク、グループワーク、ディベート、学び合いなども取り入れた形で行う。また、テキストに加えて補足プリントを適宜用いて進める。場合によってはプリントの提出を求める。 ②授業や課題には積極的に取り組み、主体的・能動的に学ぶこと。授業に対する関心、意欲態度は重要視する。私語は厳に慎むこと。 ③レポート・論文などの課題は必ず仕上げて提出すること。なお、評価に値しない内容のものは再提出させる。剽窃(コピペを含む)は絶対にしないこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス 「コミュニケーションと国語表現との関係」(総論)	◇授業の進め方・評価についての説明　◇学生・社会人に必要な「国語表現」とは◇論理的に読み・考え・表現する必要性
	2	文章表現の基礎①	◇漢字の習得方法◇熟語の構造◇仮名遣いや送り仮名 ◇四字熟語◇音訓と熟語
	3	文章表現の基礎②	◇文の仕組と文章構成◇文章の要約と理解◇原稿用紙の使い方
	4	文章表現の基礎③	◇表記の仕方◇語句の用法と文章の区切り方
	5	文章表現の基礎④	◇推敲（文章のリフォーム）◇わかりやすい説明の方法◇文章上達のコツ
	6	文章作成の基礎①	◇意見の論理的な述べ方◇セルフリベートの実践（立論、反論、主張）
	7	文章作成の基礎②	◇文章の「型」の理解◇文章の構成方法◇「構成ノート」作成
	8	文章作成の方法と実践①	◇要約の方法◇課題分から問いを見つける◇課題文型レポートの実際 ◇データー型レポートの実際
	9	文章作成の方法と実践②	◇データー資料の収集方法◇分析方法、テーマの設定方法 ◇文章作成の実際
	10	レポート・論文の作法	◇題名の付け方◇定義の仕方◇引用の仕方◇効果的な段落の方法 ◇事実と意見の区別◇わかりやすい文章を書くために
	11	レポート作成の方法と実践①	◇思考の論理的な組み立て方◇問いの立て方と根拠の示し方 ◇批判的な検討の仕方◇効果的な引用の仕方
	12	レポート作成の方法と実践②	◇レポートの「型」の決め方◇レポートのイメージのつかみ方
	13	レポート作成の方法と実践③	◇レポート作成の手順（論点を決める、情報整理・収集、組み立て、執筆、点検）
	14	国語表現の応用と活用	◇就職面接の形式、面接の流れ、話し方、面接の作戦 ◇自己推薦書・志望理由書の書き方、自己アピールのポイ

			ント
	15	まとめ（社会との接点としての国語表現）	◇プレゼンテーションの技術と実際、社会に働きかける表現

授業科目	国語表現法【視能】	担当教員 実務経験	横山昌明 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視能矯正学Ⅰ【視能】	担当教員	佐藤　幸恵		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。				
到達目標	両眼視の基礎を理解し、斜視の基本知識を持つ。				
テキスト・参考図書等	視能学エキスパート視能訓練学 第 2 版（医学書院)、視能学 第 3 版（文光堂）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他		

履修上の留意事項	講義内で単元ごとの課題を出すので、復習に役立てること。提出物は丁寧に仕上げ、締め切りを守って提出すること。 復習小テストを行うので、集中して受講すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	両眼視・眼位 1(佐藤)	眼位と両眼視
	2	両眼視・眼位 2 (佐藤)	両眼視の定義　複視・網膜再現性の理論と実際
	3	両眼視・眼位 3 (佐藤)	ホロプター・Panums area の存在と立体視
	4	両眼視・眼位 4 (佐藤)	両眼視機能の発達　大型弱視鏡による両眼視機能
	5	両眼視・眼位 5 (提嶋、佐藤)	網膜対応①　大型弱視鏡による両眼視機能　実習
	6	両眼視・眼位 6 (提嶋、佐藤)	網膜対応②　大型弱視鏡による視野闘争と両眼加算　実習
	7	両眼視・眼位 7 (佐藤)	正常両眼視と眼位　まとめ
	8	両眼視機能の異常 1 (佐藤)	斜視と複視
	9	両眼視機能の異常 2 (佐藤)	抑制・混乱視・網膜対応異常
	10	両眼視機能の異常 3 (佐藤)	網膜対応と複視　まとめ
	11	両眼視機能の異常 4 (佐藤)	複視①　プリズムの基本
	12	両眼視機能の異常 5 (佐藤)	複視②　斜視とプリズム
	13	両眼視機能の異常 6 (佐藤)	両眼視機能の異常　検査について
	14	両眼視機能の異常 7 （佐藤）	両眼視機能の異常　まとめ
	15	正常両眼視と両眼視の異常（佐藤）	まとめと復習

授業科目	視能矯正学Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	佐久間　愛 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務・視能矯正に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	リハビリテーション実習【視能】	担当教員	佐久間　愛		
対象年次・学期	1 年、通年(集中)	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	46 時間
授業目的	視能訓練士として医療現場で実践できるよう技術、知識を広げる。				
到達目標	同行援護従事者養成研修一般課程および、全身性障害者移動介護従業者養成研修課程を受講の上、修了証書を取得する。				
テキスト・参考図書等	同行援護従事者養成研修テキスト 第 4 版（中央法規出版)、ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編　第 2 版（中央法規出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	レポート課題 100％
	レポート	100	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①学内実習、学外実習共に動きやすい服装、靴を準備すること。②お弁当を食べる実習があるので、アレルギーがある場合は事前に担任に報告し、個別に持参すること。③実習の際はメモ帳を用意し、メモをとりながら受講すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	同行援護従事者養成研修課程 1 (田中)	視覚障がい者(児)の福祉サービス、同行援護の制度と従業者の業務
	2	同行援護従事者養成研修課程 2 (田中)	同行援護の制度と従業者の業務
	3	同行援護従事者養成研修課程 3 (喜田)	障がい、疾病の理解①
	4	同行援護従事者養成研修課程 4 (喜田) 全身性障害者移送介護従業者研修課程 1 (喜田)	障がい、疾病の理解① 障がい者(児)の心理
	5	同行援護従事者養成研修課程 5 (小宮)	同行援護の基礎知識
	6	同行援護従事者養成研修課程 6 (小宮)	同行援護の基礎知識、情報支援と情報提供
	7	同行援護従事者養成研修課程 7 (小宮)	情報支援と情報提供、代筆、代読の基礎知識
	8	同行援護従事者養成研修課程 8 (小宮)	代筆、代読の基礎知識
	9	同行援護従事者養成研修課程 9 (宮下　康宏)	障がい者(児)の心理①、基本技能
	10	同行援護従事者養成研修課程 10 (宮下　康宏)	基本技能
	11	同行援護従事者養成研修課程 11 (宮下、小宮、提嶋、佐久間)	基本技能、応用技能及び交通機関の利用、場面別技能
	12	同行援護従事者養成研修課程 12 (宮下、小宮、提嶋、佐久間)	応用技能及び交通機関の利用、場面別技能
	13	同行援護従事者養成研修課程 13 (宮下　康宏)	応用技能及び交通機関の利用、場面別技能
	14	同行援護従事者養成研修課程 14 (宮下　康宏)	応用技能及び交通機関の利用、場面別技能
	15	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 2 (宮下　史恵)	姿勢保持について、事故防止に関する心がけと対策

	16	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 3 (宮下　史恵)	事故防止に関する心がけと対策、生活行為の介助
	17	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 4 (宮下　史恵)	抱きかかえ方及び移乗の方法、車いすの移動介助
	18	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 5 (宮下　史恵)	車いすの移動介助
	19	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 6 (田中)	障害者総合支援制度とサービス
	20	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 7 (田中)	障害者総合支援制度とサービス、移動介護の制度と業務
	21	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 8 (高橋)	重度肢体不自由者(児)における障害の理解、コミュニケーションについて
	22	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 9 (高橋)	コミュニケーションについて、介助に係わる車いす及び装具等の理解
	23	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 10 (田中)	居宅介護概論
	24	全身性障害移動介護従業者養成研修課程 11 (田中)	居宅介護概論、居宅介護従業者の職業倫理

授業科目	リハビリテーション実習【視能】	担当教員 実務経験	提嶋紀枝 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年、通年(集中)	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生理光学実習Ⅰ【視能】	担当教員	四宮　敦志		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視力・屈折検査の原理と検査方法を学ぶ。				
到達目標	生理光学の基礎知識、屈折・調節の異常について検査機器を通して理解を深める。レンズメータによるレンズの測定ができる。裸眼視力の測定ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、理解を深めよう 視力検査　屈折検査（金原出版）、眼科検査ガイド第 3 版（文光堂）、新しい眼光学の基礎（金原出版） 屈折異常とその矯正（金原出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	実技試験 100%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①身だしなみを整えて実習すること。②確認試験に合格した学生が実技試験を受けることができる。実技試験の内容は視力検査・レンズメータである。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	視力検査（四宮）	実習準備、他覚的屈折検査、裸眼視力測定　レクチャー
	2	視力検査実習 1 (四宮)	他覚的屈折検査、裸眼視力測定　実習
	3	視力検査実習 2 (四宮)	視力検査測定方法、瞳孔間距離、他覚的屈折検査の理論
	4	視力検査実習 3 (四宮)	球面レンズによる屈折矯正 1　レクチャー
	5	視力検査実習 4 (四宮)	球面レンズによる屈折矯正 2　実習
	6	光学実習 1 (四宮、川岸)	望遠鏡式レンズメータ、オフサルモメータ
	7	光学実習 2 (四宮、川岸)	望遠鏡式レンズメータ、オフサルモメータ
	8	光学実習 3 (四宮、川岸)	望遠鏡式レンズメータ、オフサルモメータ
	9	光学実習 4 (四宮、川岸)	望遠鏡式レンズメータ、オフサルモメータ
	10	光学実習 5 (四宮、山田)	望遠鏡式レンズメータ、オートレンズメータ
	11	光学実習 6 (四宮、山田)	望遠鏡式レンズメータ、オートレンズメータ
	12	光学実習 7 (四宮、山田)	望遠鏡式レンズメータ、オートレンズメータ
	13	光学実習 8 (四宮、山田)	望遠鏡式レンズメータ、オートレンズメータ
	14	視力検査実習 5 (四宮)	球面レンズによる屈折矯正 3　総合実習
	15	視力検査実習 6 (四宮)	球面レンズによる屈折矯正 4　総合実習

授業科目	生理光学実習Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	山田正幸 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生理光学実習Ⅱ【視能】	担当教員	四宮　敦志		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視力検査・屈折検査を理解し、乱視表についての基礎知識を学ぶ。				
到達目標	乱視表による屈折矯正ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学　第 3 版(文光堂)、眼科検査ガイド 第 3 版(文光堂)、理解を深めよう 視力検査･屈折検査(金原出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	実技試験 100%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①授業開始までに必要な機器の準備を済ませておくこと。②履修内容についての確認試験に合格した学生が実技試験を受けられる。実技試験の内容は乱視表を使用した屈折矯正である。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	屈折矯正 1	乱視表による屈折矯正の実習 1(検査手順)
	2	屈折矯正 2	乱視表による屈折矯正の実習 2(検査手順)
	3	屈折矯正 3	乱視表による屈折矯正原理 1
	4	屈折矯正 4	乱視表による屈折矯正原理 2
	5	屈折矯正 5	乱視表による屈折矯正の実習 3(検査手順確認)
	6	屈折矯正 6	乱視表による屈折矯正の実習 4(検査手順確認)
	7	屈折矯正 7	乱視表による屈折矯正の実習 5(応用・測定原理)
	8	屈折矯正 8	乱視表による屈折矯正の実習 6(応用・測定原理)
	9	屈折矯正 9	乱視表による屈折矯正の実習 7(クイック)
	10	屈折矯正 10	乱視表による屈折矯正の実習 8(クイック)
	11	屈折矯正 11	乱視表による屈折矯正の実習 9（実技試験説明）
	12	屈折矯正 12	乱視表による屈折矯正の実習 10（実技試験説明）
	13	屈折矯正 13	乱視表による屈折矯正の実習 11
	14	屈折矯正 14	乱視表による屈折矯正の実習 12
	15	屈折矯正 15	乱視表による屈折矯正原理 3

授業科目	生理光学実習Ⅱ【視能】	担当教員 実務経験	四宮敦志 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	眼科学実習Ⅰ【視能】	担当教員	山田　正幸		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	眼科学の基礎を学ぶ。眼底検査、固視検査の基礎を学ぶ。				
到達目標	①直像鏡を用いた眼底検査、固視検査ができる。②無散瞳眼底カメラの撮影ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学　第 3 版　(文光堂)、現代の眼科学　改訂第 13 版　(金原出版)、病気がみえる vol.12 眼科　(メディックメディア) 眼科検査ガイド 第 3 版　(文光堂)、視能矯正学 改訂 第 3 版　(金原出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	50	①定期試験 50% ②小テスト 50%
レポート	0	
小テスト	50	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	直像鏡の実習は散瞳して検査を行う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	眼底検査 1 (佐久間)	眼底について 1
2	眼底検査 2 (佐久間)	直像鏡、固視検査
3	眼底検査 3 (佐久間)	直像鏡、固視検査
4	眼底検査 4 (佐久間、山田)	直像鏡、倒像鏡、無散瞳眼底カメラ
5	眼底検査 5 (佐久間、山田)	直像鏡、倒像鏡、無散瞳眼底カメラ
6	眼底検査 6 (佐久間、山田)	眼底について 2　座学
7	眼底検査 7 (佐久間、山田)	倒像鏡、無散瞳眼底カメラ
8	眼底検査 8 (佐久間、山田)	倒像鏡、無散瞳眼底カメラ
9	眼底検査 9 (佐久間、山田)	倒像鏡、無散瞳眼底カメラ
10	視器の機能 1 (佐藤)	調節、輻湊、開散
11	視器の機能 2 (佐藤)	瞳孔
12	視器の機能 3 (佐藤)	復習・問題演習
13	視器の機能 4 (四宮)	水晶体の機能と構造、白内障、屈折矯正手術
14	視器の機能 5 (山田)	黄斑部疾患とアムスラーチャート
15	視器の機能 6 (四宮)	復習・問題演習

授業科目	眼科学実習Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	四宮敦志 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視覚生理学Ⅱ【視能】	担当教員	松田　理恵		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視覚生理の基礎を理解し、斜視・弱視を学ぶ基礎づくりをする。				
到達目標	視覚生理学の基礎を理解し、視能矯正の分野に繋げる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第 3 版（文光堂)、視能学エキスパート 視能訓練学 第二版（医学書院)、病気が見える vol.12 眼科（メディックメディア)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	40	その他は確認テスト
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他	40	

履修上の留意事項	①プリントや板書、パワーポイントを中心に講義形式の授業。 ②テキストを持参すること。 ③まとめノートを作成すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	神経科学 1	神経系の概要
	2	神経科学 2	伝導と伝達
	3	神経科学 3	中枢神経系の構造
	4	神経科学 4	血液循環
	5	神経科学 5	運動、感覚
	6	神経科学 6	脳神経
	7	神経科学 7	まとめ
	8	視覚情報処理 1	網膜の構造
	9	視覚情報処理 2	視細胞、双極細胞
	10	視覚情報処理 3	双極細胞、神経節細胞
	11	視覚情報処理 4	神経節細胞、外側膝状体
	12	視覚情報処理 5	視覚野
	13	視覚情報処理 6	視機能の発達
	14	視覚情報処理 7	眼球運動
	15	視覚情報処理 8	まとめ

授業科目	視覚生理学Ⅱ【視能】	担当教員 実務経験	松田理恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨地実習Ⅰ【視能】	担当教員	川岸　寿幸		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	40 回	時間数	80 時間
授業目的	医療人としての広い視野・幅広い教養・高い見識をもつ。生命に対しての洞察力、倫理観、生命の尊厳について深い認識をもつ。				
到達目標	①身だしなみ、挨拶、敬語等の基本的接遇・マナーを実践できる。②小児や高齢者の特性を理解しコミュニケーションが取れる。③自ら目標を立て、課題の抽出と反省ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験		各実習先ごとの課題（見学レポート、日誌、感想を含めたお礼状）100%
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
	その他		

履修上の留意事項	①実習要項参照、見学・体験実習には、積極的に参加すること。②各実習先ごとの実施要領に従うこと。③メモを取りながら参加すること。④医療人としての視点からレポートや感想文を作成すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	札幌医科大学標本館見学(3 時間)	貴重な人体標本を見学し、医療従事者としての自覚を高める。更に、医学、解剖学、病理学への理解を深める。
	2	札幌あゆみの園見学（2 時間)	医療・福祉・教育の複合サービスの実際を見学し、仕事に対する関心と理解を深め、心豊かな視能訓練士としての素地を養う。心身に障がいのある人との関わりについて理解を深める。
	3	北海道札幌聾学校見学（2 時間)	聴覚障がいをもつ子どもたちの学習の様子を参観することで、聴覚障がい者のコミュニケーション手段について理解と関心を深める。
	4	円山動物園実習（2 時間)	動物の眼を観察したり調べることによって眼の奥深さを知り、眼についての興味を深める。
	5	保育実習(7 時間)	（小さな広場）園児の「生活」や「遊び」を通して、乳幼児の特性や保育者と乳幼児との関わり方を知る。斜視・弱視の検査および訓練の対象である乳幼児と接し、その発達段階について学ぶ。
	6	コンタクトレンズ(7 時間)	実社会での接遇を学び、眼科医療現場で必要なマナーの基礎を作る。 コンタクトレンズ販売店に来られる方のニーズを知る。 レンズコンサルティングからお渡しまでの流れを知る。 コンタクトレンズやケア用品の取り扱いを学ぶ。
	7	高齢者施設実習（28 時間)	施設の見学を通して医療人としての素養を養う。
	8	盲導犬協会見学（2 時間)	視能訓練士として視覚障がい者の生活実態について理解を深めるため，盲導犬の育成やリハビリテーション事業について学ぶ。
	9	北海道札幌視覚支援学校(2 時間)	思いやりの心で幅広い患者層に対応できる社会性を身につける。 医療従事者としての自覚を高める。
	10	保育園実習（18 時間)	園児の「生活」や「遊び」を通して、乳幼児の特性や保育者と乳幼児との関わり方を知る。斜視・弱視の検査および訓練の対象である乳幼児と接し、その発達段階について学ぶ。
	11	眼科外来見学（4 時間)	眼科施設を見学し、眼科外来の流れや視能訓練士の業務を眼で見て学ぶ。
	12	富士メガネ見学（3 時間)	種々の眼鏡の特徴を学び、眼鏡についての知識を深める。修理の見学、眼鏡店での一連の流れを学ぶ。

授業科目	臨地実習Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	高川　裕一 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	病理学Ⅰ【視能】	担当教員	飯塚　正		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	疾病の病因、発症の成り立ち、その病態を理解する。				
到達目標	疾病に関する正しい知識を身につけ治療法の意義を説明することができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験 100%　（中間試験＋期末試験）
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項

①プロジェクターを使用し、広範囲を早いペースで進むので、講義への集中と資料の整理整頓が望まれる。②中間試験を行うこともある。
③配布したプリントは毎回持参すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	疾病の定義、概念	病理学序論、疾病とは
2	疾病の原因	病因(内因)
3	疾病の原因	病因(外因)
4	病因と疾病の種類	退行性病変 1(萎縮、変性 1)
5	病因と疾病の種類	退行性病変 2(変性 2，壊死)
6	病因と疾病の種類	循環障害 1(充血、うっ血、虚血、血栓)
7	病因と疾病の種類	循環障害 2(塞栓、梗塞、水腫)
8	病因と疾病の種類	進行性病変(肥大、過形成、創傷治癒)
9	病因と疾病の種類	炎症(種類、病態)
10	病因と疾病の種類	免疫(免疫機構、免疫異常、アレルギー)
11	病因と疾病の種類	腫瘍 1(良性、悪性鑑別、原因)
12	病因と疾病の種類	腫瘍 2(種類、分類、全身への影響)
13	病因と疾病の種類	腫瘍 3(主な臓器の腫瘍、小児の腫瘍)
14	病因と疾病の種類	先天性疾患 1(遺伝機序、染色体異常)
15	病因と疾病の種類	先天性疾患 2(遺伝子異常、奇形)

授業科目	病理学Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	飯塚正 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療安全論【視能】	担当教員	山内　芳子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	医療事故の防止と対策につながる安全管理について学ぶ。感染・消毒・心肺蘇生などの医療安全について学ぶ。眼科診療に関わる臨床検査について学ぶ。				
到達目標	医療機器の基本・安全性・レーザーについて述べることができる。安全管理に配慮した行動ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	確認試験 100%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	電気の基本を学ぶことで、とかく「電気は苦手」という観念を払拭してもらいたい。そして医療機器の正しい取り扱いを学習してほしい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	手洗い・消毒・殺菌・滅菌法（橋本）	院内感染、手指の洗浄
	2	手洗い・消毒・殺菌・滅菌法（橋本）	医療機器の処理分類、消毒剤、オートクレーブ
	3	身近な電気の基本（山内）	身近にある電気の正体、静電気、オームの法則、電磁気、モーター、発電、電池
	4	医用機器 1（山内）	電磁波、医用機器の安全
	5	医用機器 2（山内）	画像診断装置(超音波、MRI、X 線 CT)
	6	医用機器 3（山内）	生体電気計測(心電図・筋電計・脳波計・血圧・呼吸計測)1
	7	医用機器 4（山内）	生体電気計測(心電図・筋電計・脳波計・血圧・呼吸計測)2
	8	医療機器学概論（本吉）	レーザー治療について
	9	救急医療 1（遠藤）	緊急時の患者・家族の心理　そのとき医療従事者が取るべき行動
	10	救急医療 2（遠藤）	普通救命講習Ⅱ①
	11	救急医療 3（遠藤）	普通救命講習Ⅱ②
	12	救急医療 4（遠藤）	普通救命講習Ⅱ③
	13	看護医療（三上）	感染症に対する対応と救急対応を含む医療安全管理の知識
	14	臨床検査（川村）	臨床検査と糖尿病
	15	臨床検査（川村）	臨床検査と糖尿病

授業科目	医療安全論【視能】	担当教員 実務経験	川村隆志 有：■　　無：□	臨床検査技師として医療現場で臨床検査に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	保育学【視能】	担当教員	鴨田　美幸		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視能訓練士として検査・訓練の対象である小児の特性を保育学の面から理解する。仕事に必要な保育について学び、体験する。				
到達目標	保育総論、乳幼児の発達と特性について述べることができる。子どもとコミュニケーションがとれる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、プリント等配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	各担当者ごとに 50%ずつの配分 ①レポート提出 40% ②提出物（製作など）30% ③その他として、毎回の授業でのワークシートなど 30%
	レポート	40	
	小テスト	0	
	提出物	30	
	その他	30	

履修上の留意事項	提出物は期限厳守の上、担当学生が一括してクラス担任に提出すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	保育学ガイダンス(鴨田・加藤)	ガイダンス、 アイスブレーキング、 親や子どもと接する時に心がけること
	2	保育講義 1(鴨田)	保育を学ぶ意義
	3	保育講義 2(鴨田)	乳幼児の発達①　からだ
	4	保育講義 3(鴨田)	乳幼児の発達②　こころ
	5	保育実技 1(加藤)	子どもの育ちを考える　わらべうたから見える子どもの育ち①
	6	保育実技 2(加藤)	子どもの育ちを考える　わらべうたから見える子どもの育ち②
	7	保育演習 1(鴨田・加藤)	コミュニケーションワークショップ
	8	保育講義 4(鴨田)	乳幼児の発達③　生活
	9	保育実技 3(加藤)	子どもの成長とおもちゃとの関係性
	10	保育実技 4(加藤)	子どもの興味をひくおもちゃ　簡単な手作りおもちゃ
	11	保育実技 5(加藤)	手作りおもちゃのプレゼンテーション
	12	保育講義 5(鴨田)	子育てと地域の役割
	13	保育講義 6(鴨田、加藤)	子育て・子育ちを支援する環境　NPO の活動紹介スライド
	14	保育実技 8(加藤)	子どもの育ちを考える　わらべうたから見える子どもの育ち③
	15	保育演習 2(鴨田、加藤)	実習報告会　保育学まとめ

授業科目	保育学【視能】	担当教員 実務経験	加藤智恵 有：■　　無：□	保育士として保育業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視覚生理学Ⅰ【視能】	担当教員	川岸　寿幸		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	実習を通して視器の生理的機能について知識を得る。				
到達目標	光覚について理解することができる。視野検査の基礎について理解することができる。色覚検査を実施できる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学　第 3 版（文光堂）、眼科検査ガイド 第 3 版（文光堂）、病気がみえる vol.12 眼科（メディックメディア）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②実習時の検査結果を提出し、検査が正しくできているか 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	実習前に実習に必要な動画を視聴してもらうことがあります。必ず事前に視聴し予習をしたうえで実習に臨んでください。 実習時は常に学生同士であっても患者さんとして真剣に実習に臨むこと 教員からの指導やアドバイスは常にメモが取れるように準備すること

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	基本的知識（松田）	明るさの単位、感覚
	2	光覚 1 (川岸、四宮)	光覚・暗順応検査
	3	光覚 2 (川岸、四宮)	暗順応体験、演習
	4	視野検査 1 (川岸、山田)	視野の基礎 1
	5	視野検査 2 (川岸、山田)	視野の基礎 2
	6	視野検査 3 (川岸、山田)	静的視野計・動的視野計 1
	7	視野検査 4 (川岸、山田)	静的視野計・動的視野計 2
	8	視野検査 5 (川岸、山田)	静的視野計・動的視野計 3
	9	色覚 1 (川岸)	色覚異常と各種検査法
	10	色覚 2 (川岸、佐久間、山田)	色覚検査実習 1　仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ
	11	色覚 3 (川岸、佐久間、山田)	色覚検査実習 2　仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ
	12	色覚 4 (川岸、佐久間、山田)	色覚検査実習 3　仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ
	13	色覚 5 (川岸)	色覚検査実習まとめ　カラーユニバーサルデザインについて
	14	視力・色覚検査実習 1 (川岸、佐久間、四宮)	救急救命学科学生の検査実習
	15	視力・色覚検査実習 2 (川岸、佐久間、四宮)	救急救命学科学生の検査実習

授業科目	視覚生理学Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	佐藤幸恵 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	解剖生理学【視能】	担当教員	鈴木　裕子		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	人体の構造と機能について生理と解剖を通して系統的に学ぶ。正常な人体の働きを知り、疾患の理解を深める。				
到達目標	眼科専門分野を学ぶ基礎として、運動器（筋、骨格)系とヒトの神経系に重点を置き、各部位の名称や相互関係・構造について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	人体の構造と機能　第 6 版（医歯薬出版） からだの地図帳（講談社)、シンプル生理学 改訂第 7 版（南江堂）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	前期と後期を合わせて評価する
	レポート	0	
	小テスト	5	
	提出物	5	
	その他	0	

履修上の留意事項	①講義ごとに小テストを実施する。 ②授業開始までに必要な機器の準備を済ませておくこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	細胞から人間まで 1	細胞と遺伝子
	2	細胞から人間まで 2	組織と器官、内部環境の恒常性
	3	運動器系 1	解剖学的用語、全身の骨格 1
	4	運動器系 2	全身の骨格 2、頭蓋骨
	5	運動器系 3	関節、骨格筋の構造と機能
	6	運動器系 4	全身の骨格筋
	7	体液と血液	体液とその調節、血液の概要
	8	血液	血球、止血、血液型
	9	生体防御機構 1	特異的防御機構と非特異的防御機構、抗体
	10	生体防御機構 2	免疫応答、リンパ系組織
	11	循環系 1	心臓
	12	循環系 2	血管系
	13	循環系 3	血管系、血圧
	14	呼吸器系 1	気道、肺の構造
	15	呼吸器系 2	呼吸機能
	16	神経系 1	神経系と神経組織
	17	神経系 2	大脳、間脳
	18	神経系 3	脳幹、小脳、脊髄、脳神経
	19	神経系 4	脊髄神経、自律神経
	20	感覚器系 1	視覚 1　概要
	21	感覚器系 2	視覚 2　調節、視路、外眼筋、対光反射

	22	感覚器系 3	聴覚と味覚、味覚の実験
	23	感覚器系 4	嗅覚と体性感覚
	24	内分泌系 1、体温調節	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、体温
	25	内分泌系 2	膵臓、副腎、松果体、消化管、性腺
	26	消化器系 1	口腔、唾液腺、胃、小腸
	27	消化器系 2	大腸、膵臓、肝臓、アルコールパッチテスト
	28	泌尿器系	腎臓
	29	生殖器系	精巣、卵巣
	30	個体の発生	受精卵、発生

授業科目	解剖生理学【視能】	担当教員 実務経験	鈴木裕子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	公衆衛生学【視能】	担当教員	渡辺　一弘		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人々の健康増進および健康をめぐる社会的な諸問題について、広い知識を身につける。				
到達目標	健康保健に関する諸法規および集団の健康指標の意味を理解し、医学分野での公衆衛生の立ち位置について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	わかりやすい公衆衛生学 第 4 版 （ヌーベルヒロカワ）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①定期試験での点数を科目成績全体の 60%の評価点とする。 ②小テスト（中間評価試験：授業中に実施）の点数を科目成績全体の 30%の評価点とする。 ③授業の参加態度などを科目成績全体の 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①教科書、配付プリント、板書を中心に講義形式で行います。 ②教科書に添付されている「わかりやすい公衆衛生学　整理ノート」を用いて、毎授業の予習復習をして下さい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	公衆衛生とは（1）	・公衆衛生の概念、健康とは
	2	公衆衛生とは（2） 健康と環境、疫学的方法（1）	・公衆衛生の歴史 ・現代の健康影響の諸相、集団の特性
	3	健康と環境、疫学的方法（2）	・集団を扱う医学
	4	健康の指標（1）	・人口問題、人口動態統計
	5	健康の指標（2） 感染症とその予防（1）	・健康状態と受療状況 ・感染症との成立要因、種類、予防、主要な感染症他（1）
	6	感染症とその予防（2）	・感染症との成立要因、種類、予防、主要な感染症他（2）
	7	食品保健と栄養	・食品の安全、食中毒、食品衛生管理、国民の栄養
	8	生活環境の保全（1）	・地球環境、生活環境の安全、ごみ・廃棄物の処理（1）
	9	生活環境の保全（2） 医療・介護の保障制度	・地球環境、生活環境の安全、ごみ・廃棄物の処理（2） ・医療保障・保険、診療報酬、国民医療費、介護保険他
	10	地域保健活動	・地域保健法と医療サービス、保健・医療従事者他
	11	母子保健 学校保健（1）	・母子保健、母子保健サービスの現状と課題他 ・学校保健制度、保健教育・管理、学校安全他（1）
	12	学校保健（2） 生活習慣病	・学校保健制度、保健教育・管理、学校安全他（2） ・生活習慣病の概念と現状、健康づくり施策、老人保健他
	13	難病対策 健康教育とヘルスプロモーション（1）	・対策の歴史、定義と指定難病、医療費助成制度、地域支援ネットワーク他 ・健康教育・ヘルスプロモーションの進め方と具体例他（1）
	14	健康教育とヘルスプロモーション（2） 精神保健福祉	・健康教育・ヘルスプロモーションの進め方と具体例他（2） ・精神医療の歴史と法制度の変遷、人間発達と精神保健他
	15	産業保健 これからの公衆衛生	・労働環境、労働衛生管理の仕組み、職業病と対策他 ・社会の変遷と公衆衛生、公衆衛生の倫理

授業科目	公衆衛生学【視能】	担当教員 実務経験	渡辺一弘 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	数学・統計学【視能】	担当教員	笠井　強		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	数学の基礎的な力を養うとともに、社会調査における統計データ分析をおこなうために必要な基礎知識の習得とその活用方法を学ぶことを目的とする。				
到達目標	①指数法則、指数の逆演算である対数を理解し計算できる。 ②衛生統計としての基本的な統計事項を資料の収集からその処理ができる。 ③資料収集から資料の特質を推定する際の収集の仕方やその推定の信頼度や危険性を求めることができる。				
テキスト・参考図書等	冊子、プリント教材を配付。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①試験(50%) 日常の学習成果を評価する。 ②レポート(30%) 議論の正確さと学習内容の理解度を評価する。 ③小テスト(20%) 各授業における習熟度を評価する。 ④提出物 上記以外に課す課題島について、別に評価する。
	レポート	30	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	予習・復習すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス(数学を学ぶにあたっての留意事項)	ガイダンス
	2	指数関数 1	指数法則とその計算、指数の拡張
	3	指数関数 2	累乗根とその性質
	4	対数関数 1	対数定義、性質とその計算
	5	対数関数 2	対数の底の変換公式・常用対数
	6	指数関数、対数関数のまとめ	演習、レポート作成
	7	場合の数と確率の基本 1	場合の数の計算
	8	場合の数と確率の基本 2	確率の計算
	9	場合の数と確率のまとめ	演習、レポート作成
	10	データの分析 1	集団の代表値、平均、最頻値、中央値
	11	データの分析 2	相関係数
	12	確率分布と統計的な推測 1	確率変数の平均と分散
	13	確率分布と統計的な推測 2	正規分布
	14	確率分布と統計的な推測 3	統計的な推測
	15	確率分布と統計的な推測の	演習、レポート作成

		まとめ	

授業科目	数学・統計学【視能】	担当教員 実務経験	笠井強 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視能検査実習Ⅰ【視能】	担当教員	佐久間　愛		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	各種検査と眼球運動の基礎を学ぶ。				
到達目標	屈折・調節について理解し、眼位・眼球運動と関連づけて述べることができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第 3 版（文光堂）、現代の眼科学 改訂第 13 版（金原出版）、病気がみえる vol.12 眼科（メディックメディア） 眼科検査ガイド 第 3 版（文光堂）、点字セット、視能矯正マニュアル（メディカル葵出版）、視能矯正学 改訂第 3 版（金原出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①定期試験 70% ②提出物（佐久間）5% ③小テスト（川岸）5% ④小テスト（四宮）10% ⑤小テスト（佐久間）10%
	レポート	0	
	小テスト	25	
	提出物	5	
	その他	0	

履修上の留意事項	学ぶ範囲が広いので、復習をすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	輻輳・開散・調節 1 (佐久間)	近見反応
	2	輻輳・開散・調節 2 (佐久間、川岸、山田)	近点の測定・調節力 1
	3	輻輳・開散・調節 3 (佐久間、川岸、山田)	近点の測定・調節力 2
	4	涙液検査 1 (川岸)	涙液検査について
	5	涙液検査 2 (川岸、山田)	Schirmer 試験・綿糸法・涙液メニスカス・涙液層破壊時間（BUT）の実習
	6	角膜検査 1 (四宮)	角膜検査について
	7	角膜検査 2 (四宮)	角膜トポグラフィ・角膜内皮細胞検査の実習 1
	8	角膜検査 3 (四宮)	角膜トポグラフィ・角膜内皮細胞検査の実習 2
	9	眼軸長 1 (四宮)	眼軸長測定の基本
	10	眼軸長 2 (四宮)	眼軸長測定の実際
	11	外眼筋の作用と眼球運動 1 (佐久間)	外眼筋の種類・神経支配・作用
	12	外眼筋の作用と眼球運動 2 (佐久間)	眼球運動の基本
	13	外眼筋の作用と眼球運動 3 (佐久間)	単眼運動・両眼運動・9 方向眼位
	14	外眼筋の作用と眼球運動 4 (佐久間)	頭位異常・Parks 三段階法
	15	外眼筋の作用と眼球運動 5 (佐久間)	まとめ

授業科目	視能検査実習Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	山田正幸 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視覚生理学Ⅲ【視能】	担当教員	四宮　敦志		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視力検査に関わる基礎知識を学ぶ。				
到達目標	視力検査の基礎知識について述べることができる。視角と視力、ランドルト環について説明できる。頂間距離の計算ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学　第 3 版（文光堂）、眼科検査ガイド 第 3 版（文光堂）、理解を深めよう視力検査･屈折検査（金原出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	①複数回小テストを実施する。②練習問題を配付するので復習すること。③計算問題が複数あるので苦手な学生は復習を欠かさないこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	形態覚 1 (四宮)	4 つの尺度、視力の分類、視力と視角
	2	形態覚 2 (四宮)	視力と視角、ランドルト環
	3	形態覚 3 (四宮)	logMAR 値、視力に影響する因子
	4	視力検査 1 (四宮)	視力検査の実際
	5	視力検査 2 (四宮)	中心視力・中心外視力
	6	視力検査 3 (四宮)	0．01 以下の測定方法、近見視力
	7	視力検査 4 (佐藤)	小児の視力
	8	視力視力 5 (四宮、佐藤)	0．01 以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習 1
	9	視力視力 6 (四宮、佐藤)	0．01 以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習 2
	10	視力視力 7 (四宮、佐藤)	0．01 以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習 3
	11	視力視力 8 (四宮、佐藤)	0．01 以下のシミュレーション・近見視力・子どもの視力検査実習 4
	12	屈折・調節 1(四宮)	屈折の分類、屈折力・調節力の計算
	13	屈折・調節 2(四宮)	頂間距離とレンズ度数 1
	14	屈折・調節 3(四宮)	頂間距離とレンズ度数 2
	15	まとめ（四宮）	総復習

授業科目	視覚生理学Ⅲ【視能】	担当教員 実務経験	佐藤幸恵 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	教養Ⅰ【視能】	担当教員	松田　理恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	医療機関の役割を理解し、接遇・マナーも含めて医療従事者としての人間性を高める。手話・点字の基礎を学ぶ。				
到達目標	①医療人に求められる教養と接遇について説明できる。 ②手話で簡単な挨拶ができる。				
テキスト・参考図書等	マナー検定テキスト、点字セット、プリント教材				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①理想の視能訓練士像 20% ②医療人のマナー40% ③手話・点字 20% ④症例発表会 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	授業には積極的に参加すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	視能訓練士総論 1 (四宮)	視能訓練士の概要、3 年間の流れ、学校生活、学習内容
	2	視能訓練士総論 2 (四宮)	理想の視能訓練士像とは
	3	医療人のマナー1　マナーの基本（高野）	基本姿勢・立ち居ふるまい・おじぎ・学校内での心得
	4	医療人のマナー2　あいさつ（高野）	あいさつは何のためにするのか・あいさつの前に心をつくる・相手に適したあいさつ・あいさつとおじぎ・物の授受
	5	医療人のマナー3　表情・態度・姿勢（高野）	マナーとは何か・なぜ医療人にマナーが必要なのか・好印象を与える表情（笑顔・あごの角度・目線）・好印象を与える態度と姿勢
	6	医療人のマナー4　身だしなみ・言葉づかい（高野）	身だしなみ・敬語とは何か・敬語の種類・正しい敬語の使い方・クッション言葉
	7	医療人のマナー5　電話対応　（高野）	電話応対の特徴・よい印象の与え方・電話のかけ方・電話の受け方・取り次ぎ方・不在対応・伝言の受け方・携帯電話のマナー
	8	医療人のマナー6　実習前の心得（高野）	実習前の心得・実習先でのあいさつ・敬語・電話・会話
	9	コミュニケーション論 1 (山本)	手話に関する基礎的理解について、指文字の表現
	10	コミュニケーション論 2 (山本)	手話とジェスチャー表現について、自己紹介、数字、指文字
	11	症例発表会 1（専任教員）	症例検討
	12	症例発表会 2（専任教員）	症例検討
	13	症例発表会 3（専任教員）	症例検討
	14	視覚障がい者の情報コミュニケーション 1 (加藤)	視覚障がい者の現状、点字の利用、録音物の利用、PC/スマートフォン・携帯電話の利用
	15	視覚障がい者の情報コミュニケーション 2 (加藤)	点字の読み書き、点字記号の基礎、点字シールの作成

授業科目	教養Ⅰ【視能】	担当教員 実務経験	四宮敦志 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生命科学【視能】	担当教員	松田　理恵		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	生命科学について基本的な知識と理解力を養い、医学の学習を円滑に進められるようになる。				
到達目標	細胞、発生、遺伝、情報伝達、免疫、恒常性を中心に、生命科学の基本を説明できる。				
テキスト・参考図書等	サイエンスビュー生物総合資料　四訂版（実教出版） はじめの一歩のイラスト生理学（羊土社)、基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（羊土社）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験		①確認テスト 60% ②提出物(問題演習、課題)の提出状況 40% 提出物は学習内容をよく復習した上で教科書などを活用し完成度を高めること。
	レポート		
	小テスト	60	
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	毎回教科書・パソコンを持参すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生命とは	生命の定義
	2	細胞	細胞の構造、組織と器官
	3	生体を構成する物質	水、タンパク質、炭水化物、脂質の構造と機能
	4	代謝	生体エネルギー生産、ATP
	5	細胞分裂	体細胞分裂、減数分裂、生殖
	6	発生	発生
	7	遺伝の法則	メンデル遺伝
	8	遺伝の法則	遺伝の法則の演習
	9	まとめ1	総合演習
	10	遺伝子発現とタンパク質合成	遺伝子が発現するしくみ
	11	遺伝子発現とタンパク質合成	遺伝子が発現するしくみ、タンパク質の基本的性質
	12	ヒトの脳と神経系	神経系、伝導と伝達
	13	恒常性	体液の恒常性、免疫
	14	恒常性	内分泌系、自律神経系
	15	まとめ2	総合演習

授業科目	生命科学【視能】	担当教員 実務経験	松田理恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	１年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生理光学【視能】	担当教員	四宮　敦志		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	光学と屈折の基礎を学び、眼科検査と結びつける。				
到達目標	眼球光学、レンズ光学、屈折、調節について説明できる。屈折力・調節力の計算ができる。屈折の種類を理解し、レンズによる矯正原理を説明できる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第 3 版（文光堂）、眼科検査ガイド 第 3 版（文光堂） 屈折異常とその矯正（金原出版）、新しい眼光学の基礎（金原出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①定期試験 70% ②小テスト 30%
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	①パワーポイントを用いた講義形式の授業。②練習問題を配付するので復習すること。③小テストを複数回実施する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	レンズの光学 1	レンズ基礎、作用・形状・表記方法
	2	レンズの光学 2	光学の基礎、レンズの分類と作用、Vergence
	3	レンズの光学 3	主要点、拡大・縮小効果、プリズム、プリズム偏角
	4	プリズムの光学 1	プリズム偏角、プリズム効果、Prentice の公式
	5	プリズムの光学 2、眼球光学 1	眼球光学、Gullstrand の模型眼、眼球の光学系と組織
	6	眼球光学 2	眼の参照軸と角度、瞳孔の光学、Purkinje－Sanson 像、収差
	7	屈折異常とその矯正 1	屈折異常の基礎
	8	屈折異常とその矯正 2	屈折異常の分類
	9	屈折異常とその矯正 3	屈折の基礎とレンズの効果から屈折矯正を考える 1
	10	屈折異常とその矯正 4	屈折の基礎とレンズの効果から屈折矯正を考える 2
	11	屈折異常とその矯正 5	パワークロス 1
	12	屈折異常とその矯正 6	パワークロス 2
	13	屈折異常とその矯正 7	屈折力・調節力の計算 1
	14	屈折異常とその矯正 8	屈折力・調節力の計算 2
	15	総復習	問題演習と解説

授業科目	生理光学【視能】	担当教員 実務経験	四宮敦志 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視器の機能解剖生理学【視能】	担当教員	松田　理恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	視覚器の構造と機能を理解する。				
到達目標	眼球、眼球付属器、眼に関係する神経や血管系、視覚伝導路、視器の発生について説明できる。				
テキスト・参考図書等	現代の眼科学　改訂第 13 版（金原出版）、視能学　第 3 版（文光堂） 病気がみえる vol.12 眼科（メディックメディア）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	
レポート	0	
小テスト	30	
提出物	10	
その他	0	

履修上の留意事項	模式図を含めたまとめノートをつくること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	視覚器の基礎	視覚器の概要 1
2	視覚器の基礎	視覚器の概要 2
3	視覚器の基礎	強膜・角膜
4	視覚器の基礎	虹彩・毛様体・脈絡膜
5	視覚器の基礎	房水・水晶体・硝子体
6	視覚器の基礎	網膜
7	視覚器の基礎	問題演習
8	視覚器の基礎	眼球付属器・眼窩
9	視覚器の基礎	血管系
10	視覚器の基礎	神経支配
11	視覚器の基礎	視覚伝導路
12	視覚器の基礎	視器の発生
13	視覚器の基礎	眼球の解剖学的・幾何学的計測値 1
14	視覚器の基礎	眼球の解剖学的・幾何学的計測値 2
15	視覚器の基礎	総括

授業科目	視器の機能解剖生理学【視能】	担当教員 実務経験	松田理恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		